

短歌

【小学1年生・2年生】

特選 すいぞくかんえがおをみせるあしかさん  
みているぼくもおなじかおする

旭森小学校1年 井上 太陽

(評) すいぞくかんのあしかさんがわらっているように見え、ぼくもおなじかおする、というところが目に見えるようです。かぞくでいったのでしょね、たのしさもつたわってきてもよいお歌だと思います。

(彦根文芸協会 森 典子)



準特選

おみそしる今すぐ食べてと言っている  
わあおいしそういただきます

稲枝東小学校2年 山田 悠月

(評) ゆげのでているおいしそうなおみそしるのようすと、はやく食べたいおもいがよくひょうげんされていると思います。私もそんなおみそしる食べてみたくなりました。

(彦根文芸協会 森 典子)

佳作

あめの日の校がい学しゆう森のはに  
あめのしづくがきらきらきれい

城西小学校1年 中村 友乃

入選

赤とんぼたんぼの上をとび回り  
秋が来たこと教えてくれる

城南小学校2年 吉田 治且

【小学3年生・4年生】

特選 　　なんでだろほしいほしいでせんそうだ

　　こどもだったらじゃんけんなのに

若葉小学校3年　　洞田　望宙

(評)　　ほしいほしいと自分の思いばかり言ってあらそつてはたいへんなことになり  
ますね。

やさしいまなざしですなおにあらわしています。よむ人にもはつとした思  
いをあたえてくれます。すばらしい作品です。

(彦根文芸協会　日比野　美鈴)

準特選　　星空を見ると気分が落ちつくよ

　　いろんな星をさがしてみよう

平田小学校4年　　伊藤　遥菜

(評)　　美しい星空に気分が落ちついて、さらにいろいろな星をさがすという心の

ひろがりあらわしています。

空を見上げるといろいろな発見があります。そうしたことに気づけるさわ  
やかな感性を大切に育てて下さい。

(彦根文芸協会　日比野　美鈴)

佳作　　花火するみんなのえ顔にこにこと

　　え顔ふえるとしあわせふえる

亀山小学校4年　　田中　美結

佳作　　山の中どんぐり拾いこま作り

　　仲良く友とこまの対決

鳥居本小学校4年　　原　大智

入選　　秋の日にくりをたべては時がすぎ

　　日はじわじわと西へとしむ

佐和山小学校4年　　宮本　佑馬

入選　　水泳がにがてだったお父さん

　　クローラできたわたしがコーチ

旭森小学校3年　　井上　璃子

【小学5年生・6年生】

特選 コスモスの中でほほえむ君がいて

ぼくの心はドキドキしている

城西小学校6年 中村 悟

(評) 作者は、意中の人があり、片思いですね。

コスモス畑の迷路を歩く機会がありました。花に見とれて微笑む彼女に、作者の心はドキドキしました。コスモス畑の自然と、片思いの心の取り合わせ、一瞬を詠み最高です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)



準特選 飛行機で世界の国々行ってみたい

友達たくさん作って帰る

城西小学校5年 房野 ななみ

(評) 世界は一つ、グローバル社会です。

「世界の国々行ってみたい」と、大きな夢を詠みました。「友達たくさん作って帰る」が実現し、やがて海外で働く人材に成長の芽生えになるでしょう。夢の人生、楽しいよ。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 道ばたにゆらりゆらめくいちりんの

コスモスの花咲く秋の朝

城北小学校6年 北川 七虹

(評) 作者は、秋の朝の道ばたに、咲き初めのいちりんのコスモスを発見、「ゆら

りゆらめく」と眺め入ったところ、よく利いています。韻律よく、母音が多く、今在る姿を深く詠まれ、明るい叙景歌になりました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

佳作

たのしみは全力つくした試合の日  
また一つ上の夢できるとき

城南小学校6年 官原 七海

佳作

休みの日あつというまに過ぎていく  
読書はやっぱり楽しい時間

高宮小学校6年 中村 綾音

佳作

くさむらで秋の虫たちないている  
わたしもいれて夜のオーケストラ

城南小学校5年 西堀 有咲

佳作

六年生すべての行事まかされる  
準備するのがとても楽しい

城北小学校6年 岡本 凛

入選

たのしみはカートをおして図書館で  
なにを読もうかかんがえてるとき

若葉小学校6年 洞田 珠宙

入選

あきになりもみじがひらりおちてゆき  
空でおどってダンシング会

城西小学校5年 前川 路偉

入選

くりさんま新米松たけかきおいも  
栄養じゅう電食よくの秋

城北小学校5年 沖藤 亜美

入選

運動会声をからして副団長  
汗と涙の結果発表

城西小学校6年 小川 朋子

入選 　　いつしゆんで終わってしまふ六年生

あと半年を悔いなく使う

城東小学校 6年 田中 美希

入選

6ねんせいあこがれられるそんざいに  
ぼくがみんなをひっぱっていく

城南小学校 6年 越智 悠斗



## 【中学生】

特選 気をつけて出かけるたびに祖母の声

思ってくれるあたたかな愛

南中学校 2年 津塩 冬愛

(評) 出かける時にはいつも祖母が「気をつけてね」と言ってくれるのがうれしくて、これをあたたかな愛情と思っています。気分よく出かけると一日が楽しくて学校生活や友だちとも仲良くできてよいことが多くなってきました。

思いを素直にまとめて、読む人にも暖かさが伝わってくる、とてもよい歌になりました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特選 寒くなり元気が出ない冬の朝

あいさつするとあたたかいよね

稲枝中学校 2年 柴田 涼平

(評) 寒い冬は誰でも活動しにくくなります。それでも外に出て行かなければならない時に、出会った人に大きな声であいさつすると、心の中からあたたかくなって元気がわいてくる思いがします。とてもよい歌です。

自分の感じたままを素直に歌にして「あたたかいよね」と呼びかけたのもよかったです。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 あいさつを笑顔ですると気持ちいい

された相手も笑顔になれる

稲枝中学校 2年 押久保 佳成

(評) 人と人のつながりに一番大切なのは、あいさつによって始まります。あい

さつを笑顔ですると、された相手も笑顔になれるという。それを短歌として上手にまとめられました。

人生には多くの人との出会いがありますが、いつでもあいさつを大切にするとさつとうまくいくと思えます。よい歌です。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 部活動冬場はすぐきついけど

仲間とやればのりこえられる

南中学校 2年 川本 直貴

(評) 人生には色々な困難もあり、部活でも大変な経験をしなければなりません。

寒い冬には一段と身にこたえるきつさがあります。同じ目標に向かって仲間といつしよにやればきつと乗り越えられると、決意を歌にしたのはとてもよかったです。これからも頑張ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

人の手で壊した地球人だけが

直せることを人は知るのか

河瀬中学校 1年 坂井 花乃

(評)

世界には、公害や戦争による地球の破壊が数多く見受けられます。そこに焦点を合わせて、壊したのが人なら直せるのも人しきくないという作者の思いがよく出ています。これを知ってほしいと素朴な疑問を感じてこの歌になったのでしょうか。これからも色々な歌をつくって下さい。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

おかえりとむかえてくれるあたたかさ

いつも笑顔ありがとう

南中学校 2年 石川 琳

(評)

帰ってくるのを待ってくれる人がいるのは幸せなことです。いつも感謝している気持を歌にしたのはとてもよかったです。結句の「ありがとう」は七文字にしたいところ。前後を入れかえて「おかえりいつも笑顔ありがとうむかえてくれるあたたかな声」のようにするとまとまりがよくなります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

「素晴らしい」言ってもらえた最終日

初日と違うあいさつの声

稲枝中学校 2年 吉田 岳大

(評)

この歌は職場体験の歌としてはとても良いのですが、知らない人が読むとわかりにくいのが惜しいと思います。『職場体験しよくたいに言ってもらえた「素晴らしい」初日と違う終りのあいさつ』のように、誰が読んでもわかるように詠むことが大切です。これからもよい歌をたくさん作って下さい。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳作

エンジンで小さな爆発おこってる  
初めて知った動くしくみを

稲枝中学校2年 中村 菜々実

佳作

雪が降り積もっていくと町民が  
雪かき始めてにぎやかになる

稲枝中学校2年 田附 寛基

佳作

好きなのはおふろの中で歌うこと  
今日も一人で大熱唱

鳥居本中学校2年 渡邊 恵奈

佳作

夏休み友達あつめてバーベキュー  
みんなとたべるおにくさいこう

南中学校2年 松井 ゆいな

佳作

こんにちはは地域の人と目を合わせ  
笑顔を添えてあいさつしよう

南中学校2年 杉本 創悟

佳作

あいさつは心と心つながるもの  
その一言で気分が変わる

南中学校2年 近藤 楓恋

佳作

あいさつで地域に咲くよ虹色の  
笑顔という名の満開の花

南中学校2年 高月 奈那星

佳作

陸上部しんどい時もあるけれど  
仲間と一緒にベストを目指す

彦根中学校2年 林 樹香

佳作

教室のドアを開けるとおはようと  
話してくれる友達がいる

彦根中学校2年 川北 人愛



短歌

入選

三洋堂足が悲めいをあげている  
やっぱり仕事は大変なこと

稲枝中学校2年 居戸 知也

入選

実感だ荷物1000個を運んだら  
よく分かったなキムラのつらさ

稲枝中学校2年 西川 翔也

入選

職体で全日程をやりきった  
大変だったけど楽しかった

稲枝中学校2年 國領 日菜

入選

幼稚園黄色い声が飛びかって  
笑顔になったよ自分も相手も

稲枝中学校2年 奥口 琴子

入選

体育祭みんなで団結したことで  
いい思い出となったこの夏

稲枝中学校2年 西田 圭佑

入選

夕暮れにもみじいろどる秋の色  
山にひろがる木々たちのうた

稲枝中学校2年 岩佐 光瑠

入選

ともだちをたいせつにしていままで  
ひとりですぐにみんなといやう

南中学校2年 越智 琉愛

入選

つらい時隣を見れば大好きな  
友がいるから笑顔になれる

南中学校2年 橋本 愛里

入選

反抗期時が過ぎれば反せい期  
年中無休親に感謝

南中学校2年 西川 真優

入選

あせ流し笑顔で練習する日々が  
もうすぐ終わり思い出となる

南中学校2年 津田 花凜

短歌

入選

なぜなんだ北朝鮮よ我が国に  
ミサイル発射ひどいじゃないか

南中学校2年 田中 愛心

入選

赤色とオレンジ色の葉がまっつて  
冬がくるよと知らせてくれる

南中学校2年 織田 乙葉

入選

コンクール大舞台での輝きは  
仲間と共に磨き上げた曲

彦根中学校2年 丸山 侑輝

入選

秋風にゆられ舞い散る葉っぱたち  
過ぎゆく日々に別れを告げる

彦根中学校2年 中村 彩美

入選

お母さん子ども授かりたのしみが  
女の子かと待ち遠しいな

彦根中学校2年 森山 広耀



## 【総評】

皆さんのよい作品（短歌）をたくさん応募していただき、とてもうれしく拝見させて頂きました。

今年の短歌部門には、五九一人から八一五点の作品の応募がありました。その中から五四点の入賞者を選考させていただきました。

小学生の作品には、友だちのことや家族・地域のできごと、希望や夢など、感動を素直に詠んでいるのはとてもよかったです。

その中で、みなさんは学校の授業で短歌の学習をしたからだと思いますが、「たのしみは」で始まる作品が一〇〇以上もあったのには驚きました。初めての短歌づくりにはそれでも良いのですが、これからは一つの型にはまらずに、自由な詠い方に進化して欲しいと思います。

中学生は、あいさつによる人と人とのつながり、仲間と日々の活動、家族の思い・感謝の気持ち、世の中に対する思い、体験によって知ったことなど幅広い方面から色々な作品があつてよかったです。

## 短歌もスポーツと同じで、

①初心者の内は基本に忠実な方が後のためによいと思います。作り終ってからもう一度五・七・五・七・七のリズムに近づくように適切な言葉を考えて欲しいと思います。

②もう一度見直すのは、よい短歌を作るためにとっても大切なことです。

③うれしかったことや自分だけの発見を短歌にするのもよいことです。

④今よりも多くの短歌を作つてその中からこれと思う作品を選んで出すようにすると、もっとよくなります。

⑤これからも、よい作品（短歌）をたくさん読んで、つづけて短歌づくりに挑戦してくれるとうれしいです。

（彦根文芸協会 河分 武士）